

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 6 回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・地域活動支援事業（追加募集分）について（公開）

①ヒアリング

②審査・採択

3 開催日時

平成 30 年 10 月 11 日（木）午後 6 時 30 分から午後 8 時 45 分まで

4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
建入一夫、日向こずえ、横川英男、横山とも子（欠席 3 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

- ・挨拶

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

- ・会議録の確認者：横山委員

次第3「議題（1）ヒアリング」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料1、当日配布資料により説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

（発言なし）

それでは、ヒアリングに入る。ヒアリング中の進行は当初募集と同様に事務局にお願いする。

【田中主事】

ヒアリングの進行を行う。

- ・「土-追1 ニュースポーツの普及事業」の概要説明

【土-追1 提案者】

- ・事業説明

【田中主事】

「土-追1」について質疑を求める。

【金子委員】

Tシャツの管理の仕方を教えて欲しい。

【土-追1 提案者】

使用後は、高士地区体育協会の予算で速やかにクリーニングして、保管は高士小学校にある高士地区体育協会の物品庫で管理する予定である。なお保管の際は、湿気らないよう乾燥剤を入れる。

【飯野会長】

以前、高士地区体育協会では地域活動支援事業にてベストを今回と同じような理由で作成した。ベストとTシャツの競合性はどのように考えているか。

【土-追1 提案者】

ファミリー綱引き大会はリージョンプラザ上越のインドアスタジアムで開催し、各地区からも参加するため、参加人数が多い。しかし、以前に作成したベストは非常に見づらいため目立たないことから、会場でも目立つようするため、Tシャツを作成す

る。ベストについては、高士地区体育大会で利用している。T シャツは子供たちでも分かるような目立つデザインを考えている。また T シャツの作成に至った経緯としては、ファミリー綱引き大会に参加した保護者や児童から他地区の T シャツを見て、良かったという意見が多かったためである。

【金子委員】

スマイルゲートボーリングセット 2 組は、昨年度も 3 組の購入申請があった。その際は 2 組に減らして採択した。今回の提案では、2 組増やすとなっているが、理由を教えてください。

【土-追 1 提案者】

昨年度は、減額採択だったこともあり、今回改めて提案した。現在フルセット・ハーフセット合わせて 3 セットが活用可能であり、本日も小学校児童 38 人に対してスマイルゲートボーリングを行った。しかし、数が足りないため待ち時間がどうしても多くなってしまふ。クラブ活動は 1 時間以内のため、ハーフセット等を追加購入できれば、限られた時間の中でも 38 人の児童が十分に使用できると考えている。次に、高士小学校文化祭の遊びフェスティバルに多くの児童が参加すると小学校から話があった。そのため、スマイルゲートボーリングやスピードラダーゲッター等の用具を揃えておかなければ、利用できない児童が多くなってしまふと考えている。

【横山委員】

T シャツのデザインについて、ローマ字で TAKASHI と表記するとあるが、ローマ字表記では、春日区の高志と見分けがつかないが、どのように考えているか。

【土-追 1 提案者】

業者に区別できるデザインの作成をお願いします。

【田中主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

・「土-追 2 平成 30 年度 稲谷【だんとうの大杉】保存事業」の概要説明

【土-追 2 提案者】

・事業説明

【田中主事】

「土-追 2」について質疑を求める。

【建入委員】

稲谷【だんとうの大杉】保存会は、いつから活動しているのか。

【土-追2 提案者】

平成30年9月1日からである。

【建入委員】

代表者が発起人ということか。

【土-追2 提案者】

そうである。

【建入委員】

会を立ち上げた理由は何か。

【土-追2 提案者】

稲谷のだんとうの大杉は、幹が枯れている部分があり、保存に向けた方策を取る必要があるが、自分たちはどのように保存すれば良いのかの術を持ち合わせていない。過去に一度、周りに赤土を入れたことがあるが、それが正しいのかも分からない。正しく管理する方法を樹木医の診断後に導いてもらい、処方箋に則って、少しでも長く大杉を保存したいと考えている。

【横川委員】

提案書内の採択の方針等との整合欄に記載について、大杉以外に高士地区内で提案団体が関心を持っている樹木はあるか。

【土-追2 提案者】

妙油の霞桜、高士小学校内のコルクの木に関心を持っている。

【飯野会長】

来年度以降の活動内容はどのように考えているか。

【土-追2 提案者】

来年度は、樹木医の診断を希望している。くびき野森林組合を經由して、8月に見積もりを取った。金額が128万5千円であり、その他に2、3社からも見積もりを取りたいと考えている。しかし、金額が高額であり、寄付等では太刀打ちが出来ない金額のため、地域活動支援事業の活用を考え、その一歩として今年度の追加募集に提案した。

【青木副会長】

樹木医に一度診断してもらった後、継続的に診断してもらう必要があるのか。

【土-追2 提案者】

樹木医から1年目に行くこと、2年目以降に行くことといった処方箋を出してもらうことができれば、自分たちで保存活動が出来ると考えている。

【青木副会長】

来年度の樹木医からの診断は1回のみか。

【土-追2 提案者】

1回を予定している。

【青木副会長】

初回は128万5千円であっても、2回目以降は数十万円とも考えられる。どちらにせよ継続的に実施する必要があると考える。

【田中主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

- ・「土-追3 飯田川のいきものと自然のふれあい活動事業」の概要説明

【土-追3 提案者】

- ・事業説明

【田中主事】

「土-追3」について質疑を求める。

【横川委員】

これは飯田町内会が管理をするということか。

【土-追3 提案者】

そうである。

【横川委員】

平成24年度に設置した机とベンチが腐食しているとあるが、傷むのが早すぎるように感じる。設置を予定している物について、雨風等の対策はどのように考えているのか。

【土-追3 提案者】

現在、設置されている机とベンチは木製であるため、雨風に弱く傷みが早い。これまでに2回ほど防腐剤や塗料を塗ったが、本体自体が腐食している。机と椅子は、雨

風で飛ばないように、また盗難防止も兼ねて鎖に鍵を付けて管理しており、今後も同様に設置する予定である。

【横川委員】

多くの人が散策に来ているとあるが、どの位の人数が来ているのか。

【土-追3 提案者】

人数の把握は出来ていないが、普段は高齢者や犬を連れた住民が散歩している。桜の時期には、保育園児が桜を見に来ている。また、町内で草刈り等を実施するときには35人程度の参加があり、その際に机やベンチを使い休憩して「もっと飯田川をきれいにしていきたい」と言った話をしている。

【横山委員】

自分も桜の時期に机やベンチを活用しており、机やベンチに修繕等色々と手を加えていることは知っている。今回の提案ではプラスチック製のベンチを検討しているが、活用している身としては木製のタイプが景観に合っていて好きだった。しかし、管理が難しいとのことであるため、出来るだけプラスチックでも景観を損ねないものにしてほしい。以前に飯田川へ行った際は、車いすの2人組や若者が写真を撮っている姿を見た。今後さらに有名になり、活用してもらえればと考えている。

【金子委員】

机やベンチは冬期間の管理はどうする予定か。

【土-追3 提案者】

これまでは冬期間は町内の小屋にしまい、春に改めて設置していた。

【横川委員】

今回、提案額が予算額を超過しているが、減額採択となった場合はどうするか。

【土-追3 提案者】

必要なものについては、来年度に改めて提案するつもりである。これまでもお花見等の行事を行ってきており、今後も継続を予定している。

【田中主事】

以上で、ヒアリングを終了する。

— 提案者退席 —

全ての事業のヒアリングが終了したため、進行を会長に返す。

【飯野会長】

これより各自最終の採点を行い、終わった採点票から事務局が順次回収する。全ての採点が終了した委員より休憩に入る。採点結果がまとまり次第、会議を再開する。

— 休憩 —

【飯野会長】

会議を再開する。

次第3 議題 (2)「審査・採択」に入る。採点結果はスクリーンに表示されておりである。結果を受けて意見交換を行う。まず不採択とする事業があるのか否かについてである。

【田中主事】

事務局より補足であるが、基本審査及び優先採択方針について、予め決めたルールの中で、自動的に不採択、評価の低い事業に該当する事業はなかったので報告する。

【飯野会長】

提案事業について、全ての採点結果が出た。予算額 48 万 2 千円に対し、提案額が 75 万 6 千円のため、27 万 4 千円超過しており、全ての事業を提案どおりに採択することは出来ない。すべての事業を採択とするのか、または採点結果を受けて、事業を不採択とするのか等を含め、協議を行う。何か意見はあるか。

【金子委員】

「土-追1」については、当初募集と合わせて二重取りになるため、来年度に回しても良いと思う。新しい事業を優先的に進めてはどうか。

【小林委員】

「土-追1」のニュースポーツは子どものためというが、ふるさと高士まつり等では実施していないように思う。グラウンドゴルフは多くの人で行い、成績を発表してはいるが、室内の遊びの様にも感じる。また、急を要するものでもなく金額も高いため、必要ではないと考える。また、ユニフォームについても各サイズの枚数が記載されているが、何を根拠にした枚数か不明である。今後サイズの変更等があった場合、追加があることも考えられる。

【飯野会長】

T シャツの枚数については提案書に記載があり、ファミリー綱引き大会の参加者を基準にしている。自分も T シャツについては疑問に感じており、過去にファミリー綱引き大会のためにベストを作成している。ベストの次は T シャツを作るのかと質問し

たところ、ベストは目立たないからとの回答であった。それであれば、なぜ最初に目立つ物をデザインしなかったのか疑問である。また、春日地区の高志と混同するような話も出たが、デザインをローマ字ではなく漢字表記にする等の工夫も必要だと感じた。

【小林委員】

運動会の時にみんなが着用している川上善兵衛 T シャツではダメなのか。どこの地区も使っていないデザインのため良いと思う。

【横川委員】

T シャツの作成は高士地区体育協会が提案してきた内容である。また、ベストは通常審判の時に着用する物であり、競技するために着用する物ではない。ニュースポーツは、いつも行っていないとの意見があったが、それなりに行っている。情報が行き届いていない部分があるとも考えられるが、周知のために回覧したところで、良く見ずに次に回してしまうことでは意味がないため、高士地区体育協会としても普及に関する努力はしていると思う。子ども達も楽しんで参加しており、それに付随して親御さん達の参加もあると感じている。

【日向委員】

自分には小学生の子どもがいる。小学校では毎年文化祭にニュースポーツを実施している。スマイルゲートボーリングやグラウンドゴルフは、毎年応募人数が多すぎて我慢しなければならない子が多くいるため、自分の子どもが我慢する側と考えると切ない。申請している道具を全て採択とは言わないが、少しでも子ども達のために道具を揃えてあげたいと考えている。

【小林委員】

それはどのように行っているのか。

【日向委員】

地域の人たちと一緒にいる。しかし、道具が不足しているために参加することが抽選であることが残念である。参加は希望制であり第4希望まで取るが、第1希望に外れた子どもは我慢するしかないのが現状である。時間も1時間と決められているため、参加できる人数は限られている。抽選結果で外れてしまうと子どもは悲しむため、少しでも参加できる人数を増やしてあげたいと考えている。

次に、T シャツについてであるが、上越市ファミリー綱引き大会を見に行くと、高士

区だけと言って良い程にユニフォームが揃っていない。確かに川上善兵衛 T シャツはみんな持っているが、各々が違う色である。参加している他の地区は同じデザインで同じ色の T シャツを着ているため、高士区も一体感を醸成するために揃えるべきと考えている。自分たちだけが違うものを着ていると親が感じ、同じように子ども達も感じてしまった。ユニフォームが1つに揃うと気持ちも揃うと考える。

【青木副会長】

確かに、強いチームはユニフォームも揃っている。T シャツが要因とは言わないが、強いチームは同じ T シャツを揃えて着ている。

【小林委員】

ふるさと高士まつりの時のグラウンドゴルフは、真ん中の的に当てるだけ、入れるだけであるため、それだけがルールだと思っていると思う。グラウンドで何十メートルもまわり、最後に真ん中に入れるとは誰も知らない。

【横川委員】

それは室内で行うための工夫である。誰も知らないというのが大会のお知らせ等しているため、興味があるならどんどん参加するべきと考える。

【飯野会長】

色々な意見が出たが、今回の追加募集では提案額が超過しているため、全ての提案を採択してもどこかを削らなければならない。自分としては3位の「士-追2」は不採択か一部減額と考えるが、金額も少額のため減額採択は難しく、満額で採択する以外ないようにも思う。

【金子委員】

「士-追2」を減額採択とすることは難しいと思う。

【飯野会長】

3位の「士-追2」は満額採択として良いか。

(よしの声)

【田中主事】

事務局から確認である。これまではの審査では、採択する事業は共通審査基準の順位に基づき、下位の事業から順に採択している。そのため3位の「士-追2」が採択をすると、2位と1位の事業も自動的に採択となるが良いか。

(よしの声)

【飯野会長】

次に、2位「士-追1 ニュースポーツの普及事業」についてである。現状で提案額に対して予算額はいくら不足しているのか。

【田中主事】

27万4千円である。

【飯野会長】

27万4千円減額しなければならない。

【横川委員】

一番良いのは残額を1位と2位で半分にしてはどうか。

【田中主事】

事務局より補足である。採点票の下部にある特記事項に意見があったため紹介する。

「士-追1」は器具の整備とTシャツの整備は別々に提案してほしい、「士-追2」は11月18日の勉強会はファミリー綱引きと日程が重なるため別日が良い、「士-追3」は同一町内にお金をかけ過ぎではないか。町内会で管理しているのであれば、町内会で修繕すべきではないかとの意見が出ていた。

また、減額方法について、割合で減額すると事業が実施できなくなってしまうこともある。そのため、基本的には収支計画の項目で減額してほしい。

【飯野会長】

全ての採択が決定したため、超過分をどこで減額するかについて協議する。先ほど、提案額を全て半分にしてはどうかと意見があったが、それでは金額が半端になってしまい、事業が実施できるとは言い切れない。個々で見た場合、項目を削る、数量を削る等の方法しかないと考える。1位と2位の2つの事業の優先順位の中で、1事業から超過分を削るのではなく2つの事業から削らなければならないと考えている。

【田中主事】

全ての事業が採択され減額を考える上で、当初募集と違い、事業実施期間が10月から3月と短いため、必要性や事業効果を考慮しながら協議してほしい。

【飯野会長】

事務局の補足を踏まえて意見を求める。自分としては、「士-追1」のTシャツについてはファミリー綱引き大会で使用したいとのことであるが、今から作成して間に合うのか。

【横川委員】

間に合う予定である。

【飯野会長】

デザインもすでに決まっており、大会に間に合うということか。

【横川委員】

高士地区体育協会としてのイメージであり、デザインは確定ではない。

【飯野正美委員】

「士-追1」と「士-追3」は、何かしら削らなければならないが、「士-追3」は個数での申請であるため提案個数を減らしての採択が可能である。しかし「士-追1」については個別の申請のため、どこを削れば良いか判断できない。横川委員より高士地区体育協会としての意見を求める。

【横川委員】

私は高士地区体育協会の関係者だが、地域協議会の委員として出席しているため、発言はしない方が良くと考えているが、敢えてお伝えするとしたら、どの備品も必要だから提案している。そのため、どこを削るかについて答えることは難しい。優先順位については団体に決定するものであるため、自分の一存では答えられない。

【建入委員】

何らかのジャッジをしなければならないことは理解している。しかし今ほどの横川委員の発言の通り、優先順位については提案団体に決定することである。この場で簡単に決めてしまってよいのか疑問である。そのため、金額のみを決定し、詳細は各団体に持ち帰って考えてもらうことも1つの方法と考える。

【田中主事】

金額については地域協議会で確定しなければならない。持ち帰るとした場合、提案団体からの回答を受けた後に改めて協議会を開催し、採決することになってしまうため、事業時期も遅れてしまい事業実施に支障が出てしまう。物品の必要性等の提案書に記載されていないことも含めた疑問点を確認する場としてヒアリングを設けていることを承知してほしい。

【金子委員】

確認であるが、「士-追1」のTシャツに緊急性はあるのか。ファミリー綱引き大会までの時間が限られているため、必ず作らなければいけない物なのか気になる。

【飯野正美委員】

大会に間に合わせたいから申請していると思う。

【金子委員】

それは絶対か。

【飯野正美委員】

絶対なのではないかと思う。

【金子委員】

Tシャツに関しては、以前より色々と話が出ていた。管理については回収してクリーニングすると話していたが、消耗品であるため個人負担としても良いと考える。結局、この場で決定しなければいけないということは、支出項目を削るということか。

【飯野会長】

そうである。

【横山委員】

超過額を2つに分けた場合、約13万7千円になる。しかし、きっちりと2事業から13万7千円を減額することは出来ない。

【横川委員】

1事業あたりの削減額をおおむね13万7千円として減額してはどうか。項目の中から減額していく中で1つは15万円減額、1つは11万円減額となっても良いと思う。

【飯野会長】

今ほどの減額ラインの意見を取り入れるならば、「士-追3」は机3台で13万9千円弱であり近い数字である。超過額を平均して減額するのであれば。

【金子委員】

平均額で減額は決定なのか。

【飯野会長】

確定という訳ではない。平均額に近い額で話をすると、ということである。

【建入委員】

1位と2位の点数がほぼ同じである。点数に差が出ることを予想していたが、全ての事業が似たような点数であったため驚いている。

【横川委員】

委員が提案事業を必要と判断したという結果であると思う。

【横山委員】

「士-追3」は机3台で13万8,996円であるため、これを減額とすれば良いと思う。
これを減額とした場合の残りの超過額は13万5,004円である。

【横川委員】

超過額の平均額で減額とし補助額が決定すれば、高士地区体育協会では補助額に合わせて用具を揃え、足りない部分は自己負担することは可能である。

【横山委員】

そのような決め方でも良いのか。例えば、「士-追3」は机の13万8,996円を減額とし、「士-追1」は残りの超過額の13万5,004円を減らしてもらっても良いのか。

【田中主事】

減額の決め方としては、各項目を見て減額する部分を決定する。

【横山委員】

「士-追3」の机を減額とした場合の、残りの超過額13万5,004円というジャストの金額は「士-追1」からは減額できる項目がない。そのため、最終的に「士-追1」の提案団体より金額を削る部分を考えてもらっても良いのか。

【田中主事】

これまでの地域活動支援事業の採択でもそうだが、地域協議会が提案事業の必要性等を勘案し、審査している。そのため、地域協議会が金額だけを決め、提案団体に一任することは望ましくない。

【横山委員】

そうであれば、どこを減額とするかが難しい。

【横川委員】

どの項目を削ってもピッタリにはならない。

【横山委員】

ピッタリにはならないため、合計金額より13万5,004円をマイナスとするのか、項目で決めなければいけないのであれば難しいことである。

【青木副会長】

金額だけでいうならば、「士-追3」の机を減額とし、「士-追1」はTシャツとスマイルゲートボーリングのフェンスを減額とすれば、だいたい金額になる。

【飯野正美委員】

しかし、スマイルゲートボーリングセットとフェンスはセットである。そのため、フェンスを減額とするのであればセットも削らなければいけないと思う。例えばTシャツの枚数を変更しても良いと思う。

【横川委員】

不足分は来年度に改めて申請してもらおうとして、枚数を変更する等しなければピッタリの金額にはならない。

【飯野会長】

支出をピッタリにしなくて良いと思う。提案金額に対して「〇〇円削る」と決定した場合、オーバーした金額は自己負担となる。

【横川委員】

そうである。そのため、不足分は提案団体が負担することになる。しかし、金額が決まらなければ提案団体も事業が行えない。金額さえ決定すれば、決められた金額の中で自己負担も考慮した上で事業が行えると思う。

【飯野会長】

「土-追1」の提案申請額から13万5,004円を減額として良いと考える。

【野口係長】

この場では、提案団体が必ず自己負担できるとは確約できない。

【田中主事】

支出項目を決めずに13万5,004円を減額して採択する場合は、減額分を提案団体に自己負担を求めることになる。

【飯野会長】

13万円を提案団体に自己負担を求めるということではなく、減額して採択するということである。

【田中主事】

それは地域協議会の審査として望ましくない。実施したい事業があり、それに必要なものを購入するということで支出がある。地域協議会として判断することは、どの事業を地域活動支援事業として優先的に実施してほしいのかを審査して採択することである。今ほど話が出ていた「申請額から〇〇円削る」だけでは、提案団体がどの事業を行うのかが決まっていない。地域協議会として、どの事業を優先して実施してほしいのかが先にあり、その後に金額が付いてくる。

【横川委員】

しかし、それは地域協議会として提案内容をすべて理解しているか、という理解していない部分もあるため難しいと思う。

【金子委員】

要は数字を出さなければいけないということだと思う。今日の時点で1つずつの金額を出さなければいけない。

【野口係長】

何の費目に対して、いくらと補助するということが必要である。1事業に対する補助総額ではない。結果的に補助総額は出るが、中身を決定してほしい。

【金子委員】

では、中身を削るか否かについて審査すれば良いということである。

【田中主事】

超過額の半分を減額した場合、提案書に記載されている事業が問題なく実施できるかについて、考慮した上で判断してほしい。超過額を半分にした金額を減額しても事業が実施できると判断するのであれば、問題はない。減額したことによって、事業が実施できないという結果にならないようにしてほしい。

【横山委員】

提案内容の中で金額だけ見て、減額したい金額になる項目を本日決定すれば良いか。その後、減額された金額内で事業内容を提案団体が変更することは可能なのか。

【飯野会長】

それは出来ない。

【横山委員】

それがダメとなると協議会で決定しても、実施できないとなった場合に意味がない。そのため、減額したい金額13万5,004円を提案団体に知らせて提案額から引いてもらい、不足額は提案団体が自己負担する明細を出してもらい次回で採択としても良いか。それであれば今日の決定は出来ない。このやり方をした場合、改めて協議会を実施しなければいけないのであれば、多少なりとも時間を掛けなければ結論は出ないと思う。

【田中主事】

地域協議会は公開の会議であり、開催の2週間前に告知するとのルールがあるため、

11月頃に開催することになる。その場合、提案事業の実施スケジュールは、10月から11月の実施がほとんどであるが、採択決定を提案団体に待ってもらうのであれば問題ない。

【横山委員】

それでは難しい。

【横川委員】

「土-追3」の提案も机を減額と決定した場合、椅子を減額としてほしかったと言われることも考えられる。それは当事者でなければ判断出来ない部分であると思う。

【金子委員】

「土-追3」は机が3台、ベンチが9台とあるが、単純に並べるということではないのか。

【飯野正美委員】

壊れているのはベンチである。

【建入委員】

机も壊れている。

【飯野正美委員】

机は、電気屋から提供された木製のケーブルドラムを使用している。

【横山委員】

景観を損ねていると思う。

【横川委員】

木はそんなに早く腐食するのか。

【建入委員】

ボロボロである。それでもメンテナンスは行った。

【青木副会長】

「土-追1」を計算してみた。グラウンドゴルフバックを減額、各ボーリングセットを1セットずつにしてはどうか。

【建入委員】

やはりこれは提案団体に戻すべきと考える。しかしそれで採決が取れないのであれば、文書で委員に採択を求めることは出来ないか。

【野口係長】

会議を開催して決定するべきと考える。

【小林委員】

今この場で提案者に回答を求めることは問題ないか。

【野口係長】

提案書を見て、「予算が足りないため、少なくともこの費用は認めるから、この範囲内で事業を行ってほしい」との考え方が落とし所である。それがふさわしいか否かに各自不安はあると思うが、それしかない。

【金子委員】

この内容で決めるということである。

【野口係長】

委員で優先順位を決めるということである。

【小林委員】

日にちもないため、これにしてほしいと、この場で提案者に連絡することか可能か。

【野口係長】

不可能ではないがそのような手順は踏まずに、地域協議会による採択の結果として良いと思う。結果を受け、実施出来ないと提案者が判断したなら取り下げて補助金を返還する等してもらえば良い。

【横山委員】

スマイルゲートボーリングセットとスマイルゲートボーリングフェンスはセットなのか。

【横川委員】

フェンスはなくても良いのであるが、ボールが他の場所に行かないためや危険がないように設置するものである。

【金子委員】

減額する金額を2事業で半々とするのは良いが、この額を削り、結果的にこの予算でとの形で出さなければいけない。

【横川委員】

先ほど野口係長が言われたように、金額をある程度決めてしまえば良いと考える。

【飯野会長】

それは総論であり、個々の項目に対することではない。事務局は総論ではなく、個々

の項目に対する協議を求めている。個々の項目のどこで何を減額とするかということである。

地域協議会として、超過額をどこから減額とするのかということである。簡単なのは超過額に近い金額であるスマイルゲートボーリングセット 15万 552円から超過額を差し引いた場合、どうなるか、ということである。

【田中主事】

例えば、スマイルゲートボーリングセットの補助額を 0円とした場合は、地域活動支援事業ではスマイルゲートボーリングセットを購入できないため、今後の普及活動は現在ある備品で行うこととなる。

【飯野会長】

一番大きな金額の項目を減額とすれば、それで話は終わる。

【田中主事】

しかし、その中でもセットの備品もある。事業の根幹に関わってくる部分、削ってしまうと事業が出来ないものは避けるべきである。

【飯野会長】

総体は事業の根幹に関わらないと思う。

【田中主事】

しかし、スマイルゲートボーリングセットを減額とするのであれば、スマイルゲートボーリングフェンスも関わってくる。セットに近いものであるため、フェンスだけ購入しても本来の用途として使用できない。

【横川委員】

それであれば、スマイルゲートボーリングセットとフェンスが提案では 2セットとなっているが 1セットずつとし、グラウンドゴルフバックも削ってはどうか。

【横山委員】

グラウンドゴルフバックはいくつ削るのか。

【横川委員】

グラウンドゴルフバックは全てである。

【横山委員】

まだ超過している。

【金子委員】

Tシャツを40枚にするとどうなるか。

【田中主事】

まだ1万円ほど超過している。

【横川委員】

スピードラダーゲッターを1セットにしてはどうか。

【金子委員】

綱引きはTシャツ40枚でも大丈夫なのか。

【小林委員】

綱引きは1チーム30人である。

【横川委員】

補欠を含めて30人である。

【小林委員】

高土地区から2チーム出る。

【横川委員】

子ども達で縄跳びに出る選手もいるため、Tシャツが必要になって来る。

【田中主事】

現在、「士-追1」から13万4千円を減額している。まだ予算額を超過しているため、更に「士-追1」から削るのか、「士-追3」からも削るのかとなる。

【飯野正美委員】

「士-追1」はこれ以上、削り所がない。

【金子委員】

「士-追3」の減額内容について、机を全部ではなく、机を1個、ベンチを4個と減額すると変更してはどうか。

【田中主事】

減らす個数によっては残額が出る。

【金子委員】

それであれば「士-追1」のTシャツの枚数を戻してはどうか。

Tシャツの枚数をキリの良い数字にすると超過または残額が出るため、半端な枚数にしてはどうか。49枚であればちょうど良い。

【田中主事】

減額内容について、確認させていただきたい。「士-追1」はグラウンドゴルフバックが4個から0個に、スマイルゲートボーリングセットとフェンスを2セットが1セットずつとし、スピードラダーゲッターも1セット、Tシャツは1枚減の49枚となっている。

【飯野会長】

「士-追1」の補助額はいくらになるのか。

【田中主事】

19万7千円となる。次に、「士-追3」は机が3個から2個に、ベンチが9個から5個に変更すると、補助額は27万3千円となる。「士-追2」は減額なしの1万2千円である。結果、予算額48万2千円に対して、補助額が48万2千円で予算内に収まっている。以上の協議結果について、飯野会長から採決をお願いする。

【飯野会長】

事務局から説明のあった3事業の採択内容に決定して良いか。

(よしの声)

決定した内容は、事務局より速やかに提案団体へ通知することとする。結果を通知する上で、「士-追2」に対し、特記事項に意見があった「11月18日の勉強会は上越市ファミリー綱引き大会と日程が重なるため別日が良い」との意見をどうするか協議する。

【田中主事】

附帯意見として付けることは出来る。しかし、附帯意見として強制力を持たせないものでなければ事務局から提案者に伝えることも出来る。

【飯野会長】

附帯意見として付けるのか、要望として事務局から伝えるのがよいか、意見を求める。

【横川委員】

附帯意見にする必要はないと思う。要望で良い。

【飯野会長】

では、要望として提案者に事務局より伝えてもらうこととする。

他に意見はないか。

(意見なし)

全ての事業の審査が終了したため、次第3 議題(2)「審査・採択」を終了する。

次に、次第4「その他 次回の開催日について」に入る。

— 日程調整 —

・次回の協議会：11月8日(木)午後6時30分から 高士地区公民館 中会議室

【飯野会長】

その他、何かあるか。

【田中主事】

事務局から雄志中学校生徒との意見交換会について報告がある。今年度については、雄志中学校区の津有区・諏訪区・高士区の3区全てで地域活動支援事業の追加募集を行っており、10月は追加募集の審査等により時間を取ることが難しい。また、雄志中学校からは、主に3年生が参加しているが、秋以降は受験等で多忙となるため時間が取れないと聞いている。それらを踏まえて3区の地域協議会会長に相談し、今年度の意見交換会は見送ることで決定した。また、3区地域協議会の意見交換会については、各区の要望があれば事務局で日程の調整が可能のため、希望等があれば事務局に声掛けをしてほしい。

【飯野会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

【青木副会長】

・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。